

公表

## 事業所における自己評価結果

事業所名		児童発達支援事業所 放課後等デイサービス はびりす		公表日		年 月 日		
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点			
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	○		バギーの位置を工夫するなど安全に過ごせるよう配慮している			
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	○		バギーの位置を工夫するなど安全に過ごせるよう配慮している。また、重症度の高い利用者がある時は非常動を増やすなどの工夫している			
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	○		施設内がワンフロアでまとまっているため見通しが良く、利用者が分かりやすく移動できる環境になっている。加えて、手すりの設置など安全面にも配慮している。			
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	○		スヌーズレンの時間など放デイ利用者さんも穏やかに過ごせるようにするなどの工夫はしている。また利用される空間や物品は、必要に応じて換気や消毒を行い、常に衛生的に保つよう努めている。さらに、終了後には清掃を行い、アルコール・オゾン・次亜塩素酸水などを使用して環境を清潔に整えている。	長期休暇では放デイの利用者さんが一緒に利用になるため、午睡等必要な利用者さんがゆっくり休める環境ではないこともある		
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	○		パーティションの活用や、必要に応じて人の少ない場所へ移動するなど、環境面での工夫を行っている。	常時個室の確保は難しい		
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	○		常勤スタッフは、必要に応じて随時参加し、学びを業務に生かせるよう努めている。			
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		誰もが把握できるようHPへ載せている。業務改善に関してはその都度変更点などを検討し実行している			
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		何かあれば情報収集を行い検討を行っている	決定したことが全て周知できていないときがある		
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。		○	外部からの情報共有を行いながら業務改善のためPDCAサイクルの実施を意識している	外部評価まで至っていない。		
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	○		2026年1月よりオンライン研修の導入を行いさらなる向上に努めている			
	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	○		HPに掲載している。個別でのプログラムは変化があった場合や一定期間で更新、送迎時・当日の連絡にて報告を行っている。			
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	○		日々の取り組みを共有し合うことで、さまざまな課題を見つけやすくなる。今年も、その課題に対する解決策を常に検討しながら取り組んでいくよう努めている。			
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	○		全職員が関わりを持ちながら情報共有を進める体制を維持し、今年も継続して取り組んでいる。児童発達支援管理責任者についても、現場での情報収集に努め、支援に必要な内容を適切に把握できるよう取り組んでいる。			
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	○		計画書はいつでも閲覧できるよう整備しており、今年もその環境を継続している。加えて、当日の支援内容については、計画に基づいた内容になっているかを職員間で確認しながら支援を行っている。			

適切な支援の提供	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	○		可能な限り数値化した評価を実施し、その結果を基にアセスメントを行い、プログラム内容へ反映する体制を今年も維持している。	
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	○		全領域を対象とした支援が行えるよう計画内容を設定し、今年もその体制を継続している。また、移行支援においては、必要に応じて小学校等を訪問し、関係機関との意見交換を実施している。	
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	○		支援開始前、実施途中、終了後など、必要に応じた各段階での対応を行う体制を整え、今年も継続して実施している。	
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	○		支援の実施過程において、継続が望ましい内容や変更が必要な内容を適宜検討し、職員間で協議のうえ、今年も適切に反映している。	
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	○		一人ひとりの状態やニーズに合わせて、個別支援と集団活動を柔軟に組み合わせた計画を作成し、日々の支援に反映している。	
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	○		前日の終業前か当日の朝に、支援に必要な内容を確認し、当日の流れに反映できるよう取り組んでいる。	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	○		終業前または当日の朝に、その日に必要な確認や準備を行い、支援に反映している。	長期休暇時は十分にできていないときもある →支援を実施しながら情報共有を行っている
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	○		文字情報に加えて写真や動画も記録として残し、定期的に見返しながら再評価を行い、支援の質を高めるための改善に取り組んでいる。	
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	○		モニタリングの視点を持って支援にあたり、送迎時や日々の状況報告時には、ご家族との情報共有を可能な限り実施している。その過程で見直しが必要と判断した事項については、適切に対応している。	
関係機関や保護者との連携	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	○		適宜適切な職員が参加するよう取り組んでいる。	
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	○		毎月の報告書、送迎時の対面連絡、電話・メール・FAX等の通信手段を活用し、関係者との連携を適切に図っている。	
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	○		状況に応じて必要な情報を共有できるよう心がけ、関係者との連携が円滑に進むよう取り組んでいる。	
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	○		状況に応じて必要な情報を共有できるよう心がけ、関係者との連携が円滑に進むよう取り組んでいる。	
	28	(28～30は、センターのみ回答) 地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組を行っているか。				
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。				
	30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。				
	31	(31は、事業所のみ回答) 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。	○		必要に応じて設けている。	
	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	○		決まった時間を取ることはできていないが、屋外活動で地域の方と会ったときには、できるだけ関わられるようサポートしている。	
33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	○		送迎時や日々のやり取りの中で、ご家族と同じ認識を持てるよう意識し、必要な情報を分かりやすく伝えることを大切にしている。		

	34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	○		必要な情報はその場の状況に合わせてお伝えし、送迎時には家庭で無理なく取り組めるリハビリ方法や介助の工夫を積極的に共有している。言葉だけでは伝わりにくい内容については、動画や画像を活用して分かりやすく説明している。さらに、必要に応じて他事業所や福祉サービスの案内も行い、家族支援の幅を広げている。	
保護者への説明等	35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	○		契約のときや変更があったときには、その都度内容を分かりやすく説明するようにしている。	
	36	児童発達支援計画を作成する際には、子どもや保護者の意思の尊重、子どもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、子どもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	○		最初にお子様やご家族の希望を伺い、その内容を踏まえて評価を行い、必要な計画を立てている。子どもの利益を中心に据えながら、ご家族にも分かりやすく説明し、必要があればその都度計画を調整している。	
	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	○		説明の際には用紙を使って分かりやすくお伝えし、内容をご理解いただいたうえで同意を得られるよう心がけている。	
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	○		送迎時の対面連絡に加え、電話・メール等も活用し、相談が生じた際には随時対応できるよう努めている。	
	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。		○	必要に応じて支援や開催を行えたらと考えている。	
	40	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	○		送迎時の対面連絡に加え、電話・メール等も活用し、相談が生じた際には随時対応できるよう努めている。	
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	○		SNS等を用いて可能な範囲で情報発信を行っている。また、個別の状況については、必要に応じて詳細な報告を個別に実施している。	
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	○		必要な際は、その都度しっかり許可をいただくようにしている。	
	43	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	○		絵カードやマカトンサイン、手話等を用い、子どもの特性に応じたコミュニケーション支援を実施している。	
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。		○		地域の方をお招きする行事は、現在のところ実施していない状況である。
非常時等の対応	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	○		面談のときには、できるだけ詳しくお話しできるようにしている。また、SNS等を用いて可能な範囲で情報発信を行っている。	
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	○		今後も同様の取り組みを継続して実施していく。	
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか。	○		必要な場合には薬剤をお預かりし、万が一の際に落ち着いて対応できるよう、対応方法を用紙にまとめて分かりやすく整理している。	予防接種の報告はいただくが、全ての把握まではできていない
	48	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	○		医師の指示およびご家族の記入内容を確認し、職員間でダブルチェックを実施する体制を整えている。	
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	○		ご家族や病院と適切に連携し、毎月の報告書を通して情報を共有しながら、リスクを最小限にできるよう努めている。	
	50	子どもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	○		問題点や体調不良などがあった場合には、ご家族と状況を共有しながら、その都度相談して対応するよう努めている。	
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	○		ヒヤリハットで見つかった課題は、職員間で注意点を確認し合いながら話し合い、改善につなげられるよう取り組んでいる。	
52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	○		自施設だけでなく、他施設の研修会にも参加し、知識や視点を広げながら日々の支援に反映できるよう努めている。		

53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	○	委員会を設置し、必要に応じてご家族へ十分な説明を行い同意を得たうえで対応している。また、拘束の減少に向けて継続的に検討および改善を実施している。	
----	--	---	--	--